

霊性（魂）を高める 夢を持つ

「夢というのは、そのまま置いておくと消えてしまう。夢に人偏を付けて傳（はかな）いと読むように、はかなく消えてしまつものなのだ」。

では消え去らない為にどうするか？
いつ何時までに、これこれのことをやると決めてそれを確実に実行していく。「薄氷を踏む如く日々慎重に生きる」のである。つまり今日を変えらることで夢に1歩1歩近づぐことが大事なのだ。周囲に生かされながらここまでやってこられたと、自らに言い聞かせ忘れてはいけない。もし自分の力だと過信すると必ずどこかに落とし穴が生まれる。決して自惚れてはいけないのである。「こうしたい」という志を持っている人と持っていない人の差はとても大きい。若い人達に「何が欲しい」と聞くと「別に」という返事がくる。それは世の中が豊かで切望感が無いことも一つの理由でしょう。飢餓感も無いし、切実に何かが欲しいという思いもない。ところがアジアやアフリカの貧しい国の子供達は鉛筆1本が手に入るといっただけでも目を輝かせて大喜

びする。夢を持つのは素晴らしい事ではあるが、かつての日本、明治時代の頃の日本と同様、どこまでも自分のための夢なのです。明治時代は「末は博士か大臣か」と立身出世が盛んにもてはやされた。それは誰のためでもない。自分のためでしょう。ある意味では皆食べることに必死だったわけである。

今の子供に夢がないのは、夢が無くても生きられるからだ。別に欲を持たなくても、実際食べていける時代なのである。この様に日本人が豊かさを謳歌する一方で、発展途上国は1分間に約30人の子供が飢えで死んでいくと言われている。その事実を目の当たりにする時、我々はある意味、彼等に対して責任があるのではないかとさえ思える。

1つの夢に向かって歩いていくことはとても素晴らしい事である。ただその夢が人間の霊性（魂）を高める為のものであつてほしい。つまり、他人に貢献できるような夢であつてほしいのである。

人間は5本の指のようにバラバラで生きていて、大きさも個性も皆違う。しかしそれは全く違う存在というわけではなく、もつともつと深い掌（魂）の部分で繋がっている。私達は指先の部分、条件の部分だけを見て、地位やお金をめくつて競争をしたり、戦争を始

めたりする生き物である。私達が目に見える世界で物事を判断している限り、人間の霊性が高まることは有り得ないのである。心の眼を持ち、心の眼で物事を判断できれば、自ずと霊性は高まってくる。条件の部分がどれだけ満たされたとしても、空しさを感じるに違いない。たとえ寝たきりで病気の人が、傍目（はため）には人間として存在しているだけのように思われる人でも、大宇宙から生かされた掛け替えのない存在なのである。霊性を高めるために人間は生まれてきたといつても過言ではないのである。

これからの世紀は確実に、情報社会から、情報を何のために使うかという智慧の時代に変化していく。「大切なのは人間性を高めてどれだけ多くの人達に関われるかである。お金や地位や名誉は2の次、3の次、4の次」。

人に対する思いやりを育てること。親切にしてもらつたら、それをお返しする。そういう「愛し、愛され」という関係を育むことが大事である。自信と思いやりという2つの基本を身につければ、人を切つたり騙したりしなくなる。お互いに、相手の良いところを見つけて引き出し合う様な関係が築けるようになるのである。

「俺が、私が」と傲慢（ごうまん）になつた途端に人間は駄目になつてしまう

と自分を戒めなければいけない。自由主義社会では必要とされるものにお金が集まらない。夢を達成しようとすると、その前に次の新しい夢が出来る。山の頂上を目指して登っていくと、隣にでつかい山が見えてくる。1つに本気になつて取り組むことで、新しい世界が広がっていく。世界には様々な宗教があつて、人それぞれに考え方も違う。しかし「親を大切にする・嘘をつくな・美しい地球にしよう」という教えはどの国もどの社会も共通している。その最大公約的な部分を集めて、1つの教えに出来ないものだろうか。実はこれが私の大きな夢である。それが実現できたら21世紀はきつと戦争のない平和な社会になる事であろう。

合掌 副住職 谷川 寛敬

